

小織 健央 様

お手紙拝見いたしました。お返事が遅くなりましたことをどうぞお許しください。

小織様に環境や人体への影響をご心配いただいている、ネオニコチノイド系農薬の使用に関する県の考え方について、ご説明させていただきます。

食料の安定した生産と供給は、人々が安心して暮らすために大変重要ですが、戦後、農薬が登場したことで、病害虫などの被害による農作物の収量や品質の低下を防げるようになり、食料の安定生産や増産も可能となりました。さらに、農業者の方が除草など農作業の重労働から解放され、生産規模の拡大や他産業への従事も可能となり、その結果、農村のみならず、国民全体の経済や生活水準も向上しました。一方で、農薬には、魚の大量死や環境汚染などを引き起こしたものもありましたが、これらは農作物生産に使用する農薬としての登録が抹消され、より生物や環境への負荷が少ない農薬が開発されてきました。

現在の栽培技術においても、農作物の安定した収量や品質を確保するためには、病害虫の防除が必要です。農作物の生産に使用できる農薬は、「農薬取締法」により、国が環境、農作物、人体などへの影響を調査し、安全性を確認したうえで登録されたものです。本県では、国の登録農薬の中から、人や魚などに対してより低い毒性の農薬を選定し、「農作物病害虫雑草防除基準」を作成しています。この中から、県内の各地域の栽培状況に合わせた農薬を使用していただくよう、農業者の皆さんにお願いをしているところです。

県では、農薬の使用量をできるだけ減らすため、病害虫が発生しにくい栽培方法や、農薬を使わない防除方法などの開発と実践を進めています。平成13年にスタートした、農薬の使用量を通常の半分以下に削減し、琵琶湖をはじめとする周辺環境に配慮して農作物を栽培する「環境こだわり農業」は、水稻の40%で取り組まれ、県全体の農薬の使用量（成分量）を、取組前の平成12年度に比べて40%減らすことができました。

県内で使用されるネオニコチノイド系農薬の多くは水田で使用されており、その大半はカメムシの防除のためです。稲では、カメムシがやわらかい穂を吸汁し、米に黒い斑点（斑点米）を作り、収量や品質を低下させます。斑点米の混入は消費者から歓迎されないため、現在の米の検査規格では、斑点米（着色粒）が1000粒当たり2粒以上あると、等級が落ち、価格も下がることから、収量や品質、価格の低下は農業者の皆さんの経営を圧迫することになります。



（写真：カメムシ） （写真：斑点米といわれるカメムシによる米の被害）

これらを防ぐため、過去には、カメムシ防除として、夏場に2回、農薬を散布していましたが、現在では、できるだけ農薬の使用を減らすため、まず畦畔の草刈りを行うことでカメムシの生息数を低減させたうえで、1回のみ農薬による防除をしています。たいへんな労力を伴う草刈り作業を行うとしても、カメムシによる品質低下を効果的に防ぐためには、どうしても農薬による防除が1回は必要となります。

カメムシ防除の農薬として、有機リン系農薬や合成ピレスロイド系農薬、ネオニコチノイド系農薬が国で登録されています。ネオニコチノイド系農薬は、一般的にカメムシへの効果が高く、他の農薬に比べて人や魚などに対するリスクも低いとされていることから、県の「農作物病虫害雑草防除基準」のリストに記載しています。

ネオニコチノイド系農薬がミツバチに被害を与えているとの報道や、一部のネオニコチノイド系農薬がEUにおいて使用制限措置となったとの報

道がされておりますが、県といたしましては、国などにおける研究の動向を注視し、今後、新たに高い毒性が確認されるなどの場合は、このリストから削除していくことや、より環境への影響が少なく、効果の高い農薬が開発されましたら、そちらに切り替えていくことなどを前向きに検討してまいります。

農業者の皆さんも、より安全で安心な農産物を求める消費者の声に応えるためにも、そして琵琶湖のためにも、できるだけ農薬は使用したくないという思いを持っておられます。農業においては、従事者の高齢化が進み、担い手の不足が大きな問題となっておりますが、農薬の使用を減らすため、たいへんな作業にもお取り組みいただいております。琵琶湖をかかえる、水源県の滋賀県といたしましても、この豊かな自然や生態系を次の世代に引き継ぐことが責務と考えており、今後も、できるだけ農薬に頼らない栽培方法の確立と普及に努めてまいります。

ご参考までに、県と県内の関係団体の取り組みを掲載した下記のホームページをご案内させていただきます。

【滋賀県農村振興課：「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」】

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/noson/marugoto/index.html>

【滋賀県病虫害防除所】

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/>

【水土里ネット滋賀：「豊かな生きものを育む水田づくり」】

<http://www.midorinet-shiga.com/>

これからも、お気づきのことやご提案などがございましたらお聴かせください。

残暑厳しき折、くれぐれもご自愛ください。

平成25年9月

滋賀県知事 嘉田 由紀子